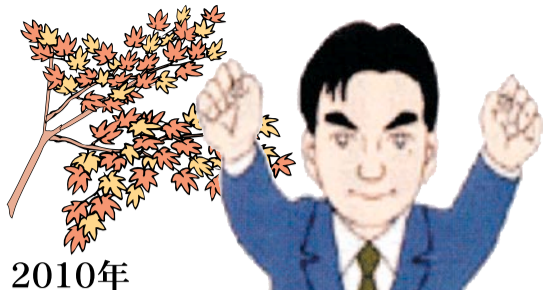




県政見聞録

KENSEIKENBUNROKU

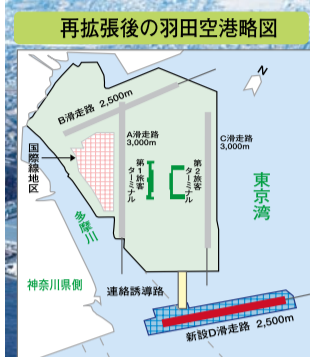
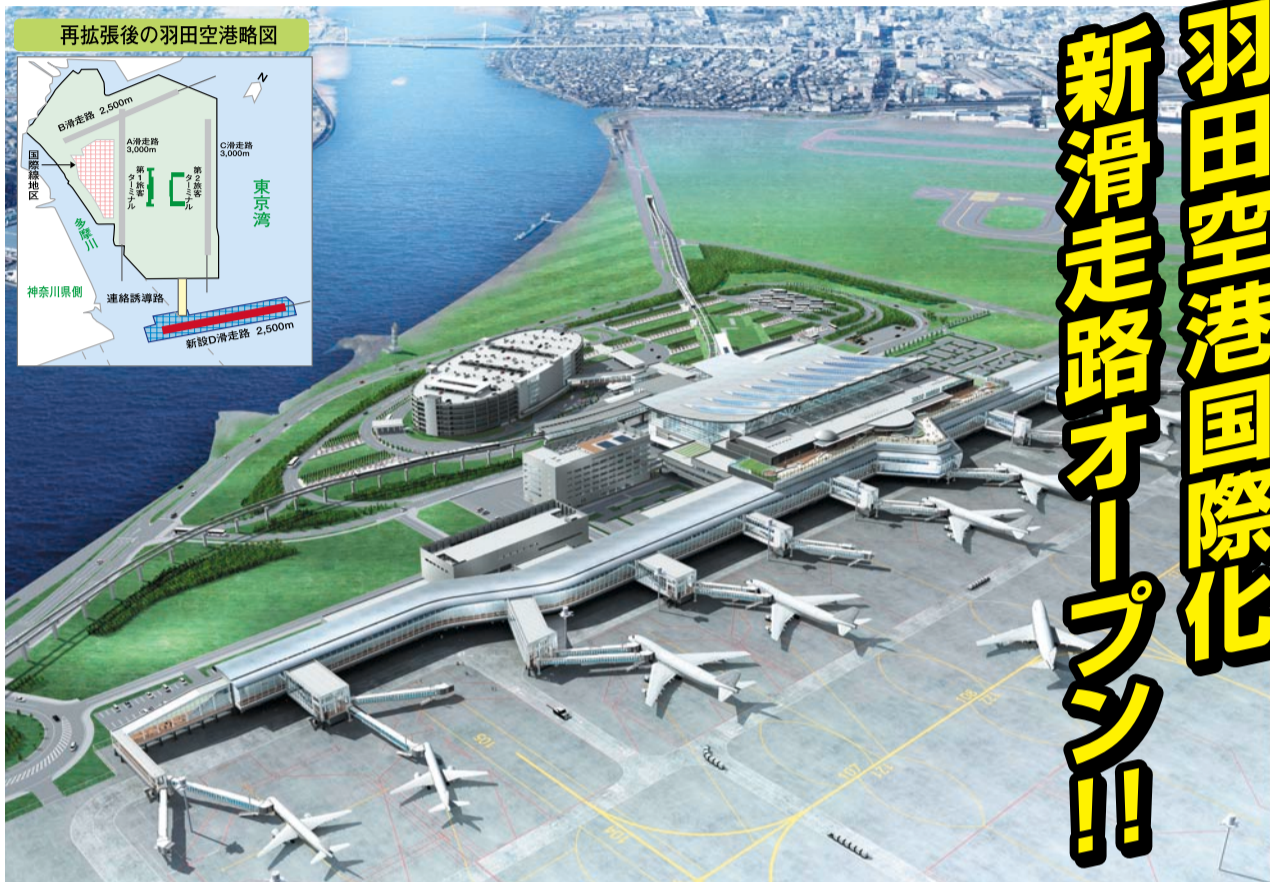


2010年
10月号

身近な県政を!

【県政トピックス】

羽田空港国際化 新滑走路オープン!!



TIAT提供

羽田空港の再拡張・国際化が実現!!

羽田空港の再拡張事業は、既に限界となつてゐる発着容量の解消と国際定期便の就航を図り、現空港の沖合いに4本目の滑走路(2,500m)を新設するとともに、国際線ターミナルなどの「国際線地区」を整備するもので、10月21日にオープンしました。

再拡張により羽田空港の発着容量は、昼間時間帯における発着回数が年間30・3万回から40・7万回に増加す

国際定期便の就航と空港機能の24時間化が実現します!!

国際定期便は平成22年の供用開始当初に、昼間年3万回、深夜早朝年3万回(合計6万回)が実現します。昼間(6時~23時)に、ソウル、上海、北京、台北などの定期便が就航します。また、深夜早朝(23時~翌6時)は世界の主要都市への定期便が順次就航し、首都圏全体の国際航空機能の24時間化が実現します。

とともに、深夜早朝時間帯の4万回を合わせると、昼夜合わせて14・4万回の増便が可能となりました。

再拡張により発着容量が
昼夜合わせて年間**14.4万回増加***

現行(H19.9.1~)	再拡張後
【昼間時間帯】 31便/時間 30.3万回/年 (415便/日(830回)に相当)	【昼間時間帯】 40便/時間 40.7万回/年 (557便/日(1114回)に相当)
	【深夜早朝時間帯】 4万回/年

*発着の回数の増加は管制の安全確保等を図りつつ段階的に実施
・併用開始当初の国際定期便発着回数は、年間昼間3万回、深夜早朝3万回(合計6万回)
・昼間10.4万回、深夜早朝4万回の増加

こうした羽田空港の再拡張・国際化は、県内企業の活性化をはじめ観光客の増加、貨物取扱量の増加、雇用の増加などの効果が期待されており、県全体の経済波及効果は年間約2,000億円にも上るといわれています。

県議会では、「羽田空港振興議員連盟」が3年前から設置され、現地視察や研修会の開催など様々な活動を行っています。

これは県議会の自民党を中心に民主党、公明党、県政会の4つの会派が超党派で組織したものであり、現在、約90名の会員が在籍しており、私も一緒に活動しています。



県市合同防災訓練実施!!

毎年、県では防災力向上のため、県内市町村との合同防災訓練を実施しています。今年は、8月29日に座間市と合同による防災訓練が、相模川河川敷において開催されました。



本部テントから訓練を見学

陸上自衛隊や在日米軍も参加

また、これに合わせてサニープレイス座間では、ボランティア支援センターの開設運営訓練が実施され、座間市青少年センターでは、多数遺体取扱い訓練が行われました。

今回の参加機関は、周辺自治体をはじめ陸上自衛隊や在日米軍も参加しており、約100の機関および団体の協力により開催され、参加人員も3000名に達しました。

今回の訓練は、県西部を中心とした震度6強の地震発生による災害を想定したもので、救出救助訓練やライフラインの応急復旧活動など14項目の訓練が行われました。

例年行われている市の防災訓練と比較すると大規模な訓練だったので、もっと多くの座間市民に訓練の様子を見ていただきたかったのですが、その点が残念に感じました。

県では、今後も市町村と協力して、大規模地震の発生に備えて準備体制の充実強化に努めて参ります。

警察と市合同のAPEC対策訓練を実施!!

本年11月に開催されるAPEC首脳会議の無事を期するため、その対策の一環として座間警察署と座間市消防本部の合同訓練が、今年6月に日産アプリーテにて初めて実施されました。

当日の訓練内容は、横浜から出動した機動隊による爆発物処理訓練や特殊な防護服を着用した消防本部の隊員も参加してサリンなどの毒物を使用したテロに対する訓練も行われ、現場に集合した警察や消防関係者の迅速な行動に感心させられました。

今後もしつ発生するかわからないテロ

活動に対し、万全な対策を講じる重要性和新たな脅威に対する関係機関の連携の必要性を強く感じた訓練でありました。



署長、消防長、消防団長と一緒に